＼特集／
「自然災害に対する危機管理」
水害と地震への備えについて

ここ最近、毎年全国のどこかで集中豪雨があり、川の氾濫や土砂崩れが発生して大きな被害が出ています。また、地震についても、阪神・淡路大震災や東日本大震災では、火災や津波など被害の大きさは想定以上のものでした。そして、いま南海トラフを震源とした地震の発生がかなり高い確率で予想されています。これら自然災害に対して「備えと対応」を市・危機管理課に聞きました。

豪雨・水害への対応

なんといっても情報収集が重要です。地震と違い水害やがけ崩れなどは情報収集により予測ができ対処が可能になります。（ゲリラ豪雨は別ですが。）そのためにハザードマップを作って広く市民のみなさんにお知らせしています。河川の管理や地形などから危険個所を見極めるのは大阪府の役割ですが、その情報を住民に伝達するのは市町村の仕事です。茨木市でも昭和42年7月に豪雨があり、安威川が決壊して大きな被害が出ました。水害は川の氾濫だけではありません。身近な水路や下水道があふれる内水氾濫や山間部ではがけ崩れ、土石流も大きな被害を及ぼします。早めに気象情報を確かめて行動することが大切です。

大地震への備え

地震は起こってからの対応ですが、今は「緊急地震速報」があって、地震発生直後に各地での震度を予想し、可能な限り素早く知らせています。最大震度5弱以上の揺れを予想したときに、震度4以上の揺れが予想される地域に発表されます。この情報はテレビやラジオ、携帯電話で受信できます。

- 室内では頭を保護し、大きな家具から離れる。慌てて外に飛び出さない。
- 避難するときは、できるだけ電気のブレーカーを切って、火災を防ぐ。
- 屋外ではブロック塀やビルの壁などから離れる。落石やがけ崩れに注意する。
- 運転中は急ブレーキ、急ハンドルを避けハザードランプを点灯して停車する。
- 車を離れるときは誰でも動かせるようにキーを付けておく。

災害情報ダイヤル

072-622-9999

火災救助事業の活動状況や地震による市内での震度をお知らせします。

おおさか防災情報メール

touroku@osaka-bousai.net

アドレスに空メールを送信して登録すると、地震や気象の情報がメールで届きます。右のQRコードを携帯電話で読み込んでメールを送信することも可能です。

NHKデータ放送
テレビリモコン「d」ボタン

災害情報を見ることができます。

おおさか防災ネット

http://www.osaka-bousai.net

ウェブカメラの映像で河川の水位を見ることができます。

日頃の備え

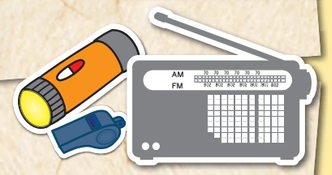
家族みんなで決めておくことが大切です。

1．どの避難所に行くか
2．家族間の連絡方法をどうするか
　＜災害用伝言ダイヤルは171＞
3．複数の避難経路を確認しておく

非常時の持出品

他人から借りられないものを中心に必要最小限のものをまとめて、リュックサックに準備しておきましょう。

貴重品（預金通帳、健康保険証、運転免許証、印鑑など）、懐中電灯、携帯電話、充電器、ラジオ、下着や靴下、持病の薬など



非常備蓄品

レトルト食品、アルファ化米、インスタント食品、水（1人1日3ℓを目安に）、カセットコンロやカセットガスボンベ、毛布など

その他

ホイッスル（家の下敷きになった場合に居場所を知らせる）、非常用トイレ、レジ袋や新聞紙（便座にセットして用をたす）、ウェットティッシュなど

茨木市全体としての備え

30年以内に発生確率70％程度、50年以内には90％程度で起こるだろうといわれている南海トラフ地震に備えていろいろな対策がなされています。

他都市との連携

茨木市と同規模の39市との協議会があり、災害時には助け合う協定を結んでいます。また、近隣では吹田市、高槻市、摂津市、島本町と三島地域協定を締結しています。

物資や救急搬送への対応

負傷者や緊急物資の搬送用ヘリポートを西河原公園などに、物資の集荷場を市民体育館に指定しています。また、西河原公園は応援部隊が来たときの拠点になります。

輸送路の確保

物資輸送などに使う幹線道路は、一般車両が通行止めになります。国道171号や府道大阪高槻京都線には「緊急交通路」と表示されています。そして、幹線道路周辺の建物は倒壊して道を塞ぐのを防ぐため、都市政策課で耐震化の指導をしています。

対策本部の立ち上げ

市の地域防災計画では、災害が発生した（または発生のおそれがある）場合に、防災の推進を図るための災害対策本部の立ち上げや、防災関係機関と連携して行うべき対応について定めています。

2016. 1. 17 市内全域防災訓練に参加して

まずサイレンが鳴り、アナウンスが流れるというので家の中で待機していたけれど、聞こえなくて外に出てみれば皆さんも同じとのこと。災害時はテレビ、インターネットなど複数の方法で情報を集めることが必要だとわかりました。避難所（玉櫛小学校）まで歩いていくと、大地震の場合は、この道は家屋が倒れて通れないだろうと思われる個所が多く、避難経路の見直しが必要なことも分かりました。

次に、葦原小学校の訓練に参加すると、運動場では100人ほどの参加者の前でレスキュー犬による救助訓練が実施され、体育館の中ではトリアージという災害時において多数発生した傷病者に対応するための救急処置訓練が行われていました。その後、300人程の参加者全員がCPR（心肺蘇生）トレーニング・ボックスを使用した救命訓練を体験し、災害伝言ダイヤル（171）の利用方法の説明が行われました。最後に自衛隊による炊き出しのカレーが全員にふるまわれました。いざというときこうした体制がとれるようにするために、このような訓練が重要であると改めて気づかされた一日でした。21年前のあの阪神・淡路大震災の恐怖が薄らぎかけている今日この頃、近いうちに起こるであろうといわれている南海トラフ地震に備えるよい機会となりました。